

# 微信の便利な機能

● 放 眼 日 中 ●

外国人が中国に行つて困ること。それは、フェイスブックやGメールにアクセスできないことではないだろうか。普段使っているものが使えない、というのは結構なストレスである。連絡が取れない、約束の場所を探したいが、地図を見ることができないなど、正直不便だと言わざるを得ない。

では、中国人はどうしているのか。もはや、フェイスブックやグーグルは使われず、中国版LINEと呼ばれる、微信（ウィチャット）が想像以上に普及している。筆者はほとんど新しいシステムが登場する現代からすでに脱落しており、スマホすら使わないつもりでいたのだが、恐らく今の中国で、スマホを持たず、微信をやらなければ、何もできないとの危機感から、ついにスマホを持つことになってしまった。

趣味であるお茶の情報を得ようと お茶屋さんに行つても、今は誰も名刺すらくれない。今後の連絡は全て微信でやろう、ということになり、先方が微信のQRコードを要求してくる。微信をやつていなければ、その時点でお友達になることは難しいのである。

今の若者の中には「Eメールを送つたことが一度もない」という者まゝであり、明らかに次元が違つてきている。確かにGメールなどが使えなければ、Eメールを送ることもなく、携帯電話のショートメッセージなどで対応していたのだろうが、この微信の出現であつたという間に通信形態に変化が起つた。そして、それは通信にとどまらない。

先日、内モンゴルの呼和浩特市中、紹介された人を訪ねたところ、「次の訪問先まで車で送りましょう」と

言われたので、この人が運転して送つてくれるのかと思つてみると、「5分以内に車が来ます」と言う。確かに、時間通りに指定した場所に高級車がやつて来て、ネクタイをきちんとして締められた運転手がドアを開けてくれて驚いた。このハイヤーサービス、中国の大都市で人気だというが、車を呼ぶのも微信の中のアプリ、支払いも何と微信で行うというからすごい。料金は一般のタクシーより少し高いようだが、もしこのサービスが安定してきたら、車を保有する必要がなくなるな、とまで思わせるものがあった。

日本にも「おサイフケータイ」というものがあつたが、その普及はどれぐらい進んでいるのだろうか。少なくとも、周囲でこれをいつも使つているという人にはあまり出会わない。だが、中国では一緒にコーヒー

を飲んでも、支払いはスマートに微信で行われ、筆者の出る幕はないことがほとんどだ。しかも日本と違い、ハイヤーの呼び出しと支払いのようにリンクしていることが使いやすさを際立たせ、中国人の多くが微信は世界で最も優れた機能を持つと自負するまでになつていく。

そんなに便利なら筆者も微信の支払い機能を使いたい、と思つて聞いてみると、「中国の銀行口座と身分証番号が必要」と言われ、真に国際的なサービスではないことが分かつた。ただ、中国では消費者のさらなる利便性に合わせて、新銀行の設立などが模索されている。当面、微信が既存銀行を脅かす可能性は高くないが、その決済機能には注目しておく必要がある。日本観光で、買い物や支払いに将来活用されるかもしれない。



コラムニスト・アジアソウオッチャー 須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。